

あさひ便り

♪あさひテレサホームの仲間達と共に♪

吉村音楽教室主宰 吉村トク



平成 18 年 5 月 25 日に現在の北杜市大泉町に永住し始め、平成 19 年春より年 3 回ぐらい金光さんと共にボランティア活動を開始。亡き島充弘さんに受け入れられ、楽しい夜を過ごすことができました。感謝しております。

島充弘さんが亡くなって、特に K 君は精神的ショックにより口を閉ざし、病院では「治らないでしょう」との診断。島武代さんは大変お困りの顔をして、音楽の指導をお願いしたいとのこと。この言葉に接した私は勇気を得ました。

音楽は沢山の人々を救う力があると若いころより信じ続けていた私は「ヨシャ！！」やってみようと、武代さんに OK の返事をし、本格的な指導ができるアシスタントが必要と思い、直ちに衣笠春子さんに応援を依頼し、平成 22 年 8 月 11 日より、私、武代さん、春子さんと毎週、歌の好きな彼らと楽しくコーラスを開始。

K 君は自由、気ままに楽しい歌を聞きながら時は過ぎ、10 月末ごろ K 君が歌ったとの連絡を受け、思わず「ヤッター」と大声を上げ飛び上がり「よかった。よかった」と安堵したことでした。

当時は 8 人からのスタート。翌年 5 月ころ、岩崎君が「先生。うたは歌えないけど、僕たちも楽器で参加したい」といってきました。これで寮生全員が参加。すぐさまベル、マラカス、カスタネット、タンバリン、のちにヨハネよりドラムセットを寄贈されましたが、最初はタルのドラムで「吉村トク & テレサ合唱・合奏隊」が結成されました。毎週彼らと共に、心豊かな時間を過ごし、なんとも云えぬ幸を感じた日々でした。

そんな時春子さんが「彼らを本
当の舞台に立たせたいね」の一
言。「ヨシャ！！」と同意し、そ
れに向けての練習が始まりました。平成 24 年 6 月 16 日、一回目のコンサートを「やまびこホール」にて開催、大好評を得ました。「よかたね」と喜び合ったもの



でした。その楽しさをもう一度ということで翌年の6月に第2回を開催することが出来ました。しかし平成26年4月ごろより体調を悪くし、三回目はなんとか予定通り平成26年6月に開催に漕ぎつけましたが、翌年は一年休ませていただき今年、最後のコンサートとの思いを胸に全身全霊を尽くし準備をし、6月19日開催の運びとなりました。

これを機に「あさひテレサホーム」との活動を打ち切らせていただきました。臉を閉じれば楽しく過した日々が溢れんばかりの思いで湧き上がってきます。

「あさひテレサホーム」の皆さん本当にありがとうございます。

これからも「あさひテレサホーム」の発展とご活躍を心よりお祈りしております。

第4回ホームコンサートのご報告

とく先生

と

あさひテレサホームの仲間たち

プログラム

グループホーム、NPO法人あさひテレサホームで暮らす障がい者たちによる楽しい音楽会です。吉村とく先生の指導するピアノや歌の、日ごろの練習の成果をお聴きください。毎日の仕事や作業のあいまをぬって、楽しみに練習に励んできました。同時に、賛助出演者の手話ダンスや独唱、さまざまな楽器の演奏もお楽しみに。一緒に楽しいひとときを過ごしていただければ幸いです。

		司会・進行	谷 美美子
始めの言葉		吉村とく（ピアノと歌唱指導）	
1. 手話ダンス	切手のない贈り物	阿部多恵子	
2. 車椅子ダンス	タンゴ / マンボ / ワルツ	油井敬治・うめ子	
3. ピアノ独奏	ロング・ロング・アゴー ロンドン橋	南 建司 田中よし子	
4. 独 唱	可愛い魚屋さん お花のホテル 砂 山 赤いくつ び わ 花嫁人形 蛙 の 笛	ピアノ伴奏：吉村とく 阿部多恵子 馬場真理子 佐藤美代 関 弘子 原藤恵子 島 武代 衣笠春子	
5. フルート演奏	ラブミーテンダー あなたと夜と音楽を ほか	ギター伴奏：成田 明 成田昌代	

***** 休 憩 *****

6. ケーナとチャランゴ演奏	フォルクローレ：こだま コンドルは飛んでいく ほか	
7. オカリナ演奏	オカリナ・アンサンブル：パープル・エコー ゴンドリ・ゴンドラ ほか	
8. 三味線と唄唄	磯節 / さのさ節	田辺征子
9. 独唱	北 酒 場 百万本のバラ	笹尾宏一 馬場春夫
10. 楽団演奏と合唱	フルート：成田昌代 ピアノ：吉村とく 演奏 ドミニク 岩崎幸一・市村明・笹尾宏一 小林徹・守屋勝 合唱 おもちゃのチャチャチャ / 若者たち / かめめの水兵さん この広い野原いっぱい 保田真木・南建司・田中よし子 峯崎由美・佐藤恵美子・島武代 と、その他のみなさん	
11. みんなで歌いましょう	茶つみ / 手のひらを太陽に / ふるさと	
終わりの言葉	島 武代（あさひテレサホーム理事長）	

2年ぶりのホームコンサートを6月19日（日）に開催することができました。今回は長坂コミュニティー・ホールをお借りして公演時間2時間の楽しい時間を過ごすことができました。ほんの一部ですが、写真でその場の雰囲気を感じていただければ幸いです。



ホール内部



楽屋での記念写真



合唱風景&迷指揮者～花柄がきれい♪



指揮者も楽しそう ラン♪ラン♪ラン（笑）



♪♪ あさひテレサ合奏合唱隊 ♪♪



輝いていますね～オーラが出ています♪



<盲伝と私>

日本盲人キリスト教伝道協議会 主事 昆 百合子



日本盲人キリスト教伝道協議会（＝盲伝）は、１９５１年に創立された、視覚障がいのあるキリスト信徒のための支援団体です。当初はヘレン・ケラーの盲人支援団体から年間１００万円の支援を得て活動していましたが、支援終了に伴い１９７９年から自立して活動しています。私はこの盲伝事務局で２０１４年から主事（＝事務局長）をして

いますが、事務職員としては２００５年からです。全国の会員は視覚障害のある方、無い方合わせて約５００人です。事務所は東京都新宿区西早稲田の日本キリスト教会館の中にあり、他のキリスト教団体と交流しながら働いています。

働きは、月刊誌「信仰」の発行（点字・活字・音声版）、全国修養会（＝全国大会）などの集会の開催、聖書・讃美歌などの点字図書の取り次ぎ、国際交流としてバングラデシュの盲学校を支援して視覚障がい女性の自立を助けています。月刊誌「信仰」は昨年発刊１００周年を迎え、戦争中もページ数を減らしながらも発行し続けました。点字の読みものの無い時代に希望の光でした。今は、巻頭のメッセージは関係する牧師にお願いし、また毎月テーマを決めて会員から原稿を集め発行されています。８月号のテーマは「私の残したい証言（８）」でした。その他に、朗読奉仕によるキリスト教書専門の音訳図書の取り次ぎや、会員からの電話相談にも応じています。

今年の修養会は8月9日（火）から10日（水）にかけて長野市で開催され、全国から視覚障がいの方30名を含めて、70名の参加がありました。以前は100名を超える参加がありましたが、やはり高齢化と暑さの季節ということもあり、人数が減って来ています。しかし、集まる方々の暖かい信頼に結ばれた楽しい交わりの時でした。ほとんどの方に同行者がありますが、中にはJRや航空会社の支援で単独で参加される方もあり、盲導犬を連れた方の参加もありました。

また、今年は9月に15年ぶりにバングラデシュからの客人として、盲学校の校長先生の女性を迎え、関係施設見学、盲伝会員との交流を行い、今後の支援について話しあいます。テロ事件で7人の日本人が亡くなりましたが、このような時にこそ交流を続ける意味があると思い準備を進めています。

活動の資金は、「愛の献金」と言われる外部からの献金と、維持会員の会費と「自立伝道献金」から成り立っています。これから間もなくクリスマスの「愛の献金」募金の準備を始めます。全国の教会、キリスト教主義学校、関連施設、個人に約5500通発送しています。

障がいのある方やその家族が安心して暮らして行けるように、盲（見えない人）・晴（見える人）の交流を続けて来ています。役員の高齢化に伴い活動を理解する後継者の若者の育成が求められています。

以上が、盲伝の働きの説明でしたが、私の障がいとの出会いの原点のひとつは「あさひ福祉作業所」です。皆さまの働きが支えられますようにお祈りしています。

いま思うこと

代表 島 武代

津久井やまゆり園の事件は、衝撃でした

私の福祉の原点は、小さな命を守る、ここに 있습니다
小学校4，5年頃、同級生の男の子が出産後すぐに亡くなった母親の代わりに、弟か妹をおんぶしてお子守していました。父親は鉄工所で真っ黒になって働いているからです。私が友達と遊び歩いている時に見かけたこの光景は、今でも鮮明に残っています。

生まれた命は、どんな状況・状態になってもいとおしく、育もうと思うのが親・兄弟です。その命を育てるには、社会的な援助が不可欠です。社会で守られていれば、一般の人が障害になったときも安心です。ですが、今の社会は、障害者、老人、そして青年にとってもとても生きづらいものです

ここに新聞から掲載させていただきます

「生存の価値否定、二重の殺人」

全盲・全ろうの東京大先端研教授 福島 智さん執筆

身の毛がよだつというのは、こういう感情のことを言うのでしょうか。それと同時に、まるでドレッシングと間違えて、サラダに食器用洗剤をかけてしまった時のような、そんな吐き気を伴う違和感があります。

今回の犯行は、通常の殺人事件の範疇を超える「二重の殺人」ではないでしょうか。一つは、被害者の肉体的生命を奪う「生物学的殺人」。もう一つは、人の尊厳を冒瀆し、生存の価値自体を否定するという意味での「実存的殺人」です。しかし、洗剤をサラダにかけたような、このなんとも言えない違和感はどこから来るのか。それは、容疑者と私たちがまったく無関係だとは言いきれないと、私たち自身がどこかで感じてしまっているからではないかと思います。

容疑者は衆院議長への手紙で、障害者を殺す理由として、「世界経済の活性化」をあげました。つまり、重度障害者は、経済の活性化にとってマイナスだという主張です。

こうした考えは、あからさまには語られなくとも、私たちの社会にもあるのではないのでしょうか。労働生産性という経済的価値で、人間の価値がはかられてしまう。そんな社会にあっては、重度障害者の生存はおぼつきません。

しかしほんとうは、障害のない人たちも、こうした社会を生きづらく、不安に感じているのではないのでしょうか。なぜならだれであれ、労働能力が低いと評価されれば、社会から切り捨てられてしまうからです。

相模原事件は、私たち一人ひとりに重い問いをつきつけています。



あさひ作業所夏の報告

指導員 牧本拓也

こんにちは。夕方の風は少し秋らしくなってきましたが、日中はまだまだ歩くだけで作業着の色がまだらになるほど暑いです。

あさひでは5月頃から農作業が本格化し、夏休みにはワークキャンプの受け入れがあります。お盆休みが終わりそれらが一段落ついたので、途中経過を報告します。(実際は草刈りや舗装工事やあさひのメンバーのイライラ夏の八つ当たり合戦をどうしたものかと悩んでみたりはありますが、年中行事としての区切りということで)



まずは田んぼ。

今年は去年と比べて大幅に改善されました。

田んぼ四枚のうち二枚をボランティアの方々と手植えを行いました。

それぞれ違う方法を取りましたが、両方ともきれいに植えることができました。

除草作業も道具の改良と定期的に作業を行うことにより雑草もヒエも少なくなりました。ただ一枚だけ効果が薄かった所があるので、そこは次回の課題です。



こちらが改良した除草器です。鎖の部分を引きずりながら田んぼを練り歩きます。除草効果が高まった代わりに凄く重い(体感 30 キ超)ので、軽量化する必要があります。



こちらは大豆畑です。手前と奥の方で大豆の背丈が違います。本来二回する必要がある転倒防止と除草のため行う土寄せを一回しか出来なかったのが雑草が蔓延り、ワークキャンプの方たちと雑草を抜いた際大豆も一緒に倒れてしまったのが手前のものです。全体の半分くらい倒れています。



今年から小豆栽培も挑戦しています。
大豆と同じ育て方で育てています。
なのでこちらも土寄せが一回しかできず雑草の状況も倒れたことも一緒です。
田んぼは注力した分順調だと思います。収穫量も去年より増えるでしょう。
畑はもう少し先に手を入れるべきでした。
これで終わりです。ありがとうございました。



鈴木美智子さんと島武代さん→決まっている～♪♪♪



小豆



市村さん！今年も美味しいお米を宜しく～♪



大豆



きつねさん～！ 鶏さんをいじめないでネ♪



絵で描いたような八ヶ岳の風景

新任スタッフ紹介



☆村瀬 麻里子 2016年1月よりあさひ福祉作業所
♪引き売りスタッフ新任♪

☆ あさひ交流会の予告：日時 平成28年12月10日(土)

餅つき大会 午前10時～午後2時

特定非営利活動法人あさひ

あさひテレサホーム

〒408-0002 山梨県北杜市高根町村山北割 86-6

<http://www.asahi-teresa.com>

TEL 0551-47-3950 FAX 0551-47-4414

asahi-fukushi@cd.wakwak.com

賛助会費・寄付金等 ★郵便局振込★ 00220-1- 98254

編集者：中山 正博